

第47期 第2四半期のご報告
(平成23年4月1日～平成23年9月30日)

IRハンドブック



Power Supply Business



Maintenance Business



Supplementary Equipment Business

 株式会社 エージーピー
AGP CORPORATION

銘柄コード：9377



代表取締役社長

堀内 孝

エージービーグループ理念

「社会から信頼を受ける
会社を目指し、
社会の繁栄と地球環境の
浄化保全に貢献する」

株主の皆さまには、平素より格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。
当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、東日本大震災後の停滯を脱し、回復の途上にあるなかで、電力供給の制約や原発事故の影響、欧州の債務危機による金融市場の動揺や円高の長期化など、先行きのリスク要因による景気の下振れが懸念されております。

航空業界では、航空各社による路線の運休・減便などからは徐々に回復しつつあるものの、引き続き機材の小型化が進んでおります。また、原発事故の影響や円高などにより訪日需要の回復が遅れております。

このようななか、当社グループの当第2四半期連結累計期間の売上高は前年同期比3億16百万円(6.0%)減の49億38百万円となりました。

営業費用につきましては、動力事業、付帯事業での販売減に伴う原材料費の減があり、さらに人材の効率的な運用などによる人件費の削減や、消耗品費をはじめとした管理可能経費の削減に努めたものの、羽田空港新国際線地区動力供給設備の減価償却費の増があり、前年同期比2億34百万円(4.7%)減の47億76百万円となりました。

この結果、営業利益は前年同期比81百万円(33.5%)減の1億62百万円、経常利益は前年同期比78百万円(36.4%)減の1億37百万円、当四半期純利益は前年同期比22百万円(24.3%)減の70百万円となりました。

現在、当社グループは2011年度を初年度とする3カ年の中期事業計画に取り組んでおります。1年目の当期は、2011年3月に発生した東日本大震災の影響が色濃く、先行き不透明な状況でのスタートとなりました。しかしながら、激変する航空業界のなかで明日の飛躍を目指し、筋肉質でリスク耐性の高い企業体質づくりと新しい環境に対応する事業基盤の構築を図るという、中期経営計画の目標につきましては、継続して追求し、中期的な企業価値向上に努めてまいります。

当社グループは今後も、事業の推進をとおして空港におけるCO₂排出抑制および騒音の低減を図るとともに、医療・福祉分野に貢献しながら社業の発展に邁進してまいります。

株主の皆さまには、今後とも格別のご理解と一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

▶ 業界の動向と通期の見通し

航空業界は、中期的にはアジア地域の経済発展、首都圏空港（羽田空港、成田空港）の容量拡大、オープンスカイ（航空自由化協定）の進展、LCC（格安航空会社）の台頭などにより、航空需要は拡大が見込まれます。

しかしながら、当期においては東日本大震災の発生から、原発事故の影響による航空需要の動向や、電力需給状況の動向などが当社業績に与える影響を合理的に算出することが困難となるなど、極めて厳しい状況となりました。

このため、通期の業績予想については未定としておりましたが、2011年10月27日、現時点において入手可能な情報や予想などに基づき、下記のとおりといたしました。

2012年3月期の通期見通しは、動力事業では、原発事故の影響や円高の長期化などにより訪日需要の回復が遅れていることに

加え、欧州の債務危機による景気の下振れ懸念など厳しい状況が続いており、航空需要の本格的な回復には時間がかかることが想定され、減収となる見込みです。整備事業では、顧客の経費削減施策の実施に伴い、例年下期に集中する施設・設備などの更新・修繕作業の大幅な減少が予想されることから、若干の減収となる見込みです。付帯事業では、フードコート販売で前年に大型案件があったことから、減収となる見込みです。

以上のことから、売上高は99億74百万円（前期比7.2%減）となる見込みです。

一方、営業費用は、引き続き原材料費、人件費をはじめとしたあらゆる経費の削減に努めてまいります。営業利益は3億4百万円（41.8%減）、経常利益は2億54百万円（44.8%減）、当期純利益につきましては1億7百万円（48.6%減）を見込んでおります。

▶ 当四半期の実績（2011.4.1～2011.9.30）

連結売上高	49 億 38 百万円
連結経常利益	1 億 37 百万円
連結四半期純利益	70 百万円

▶ 通期の見通し（2011.4.1～2012.3.31）

連結売上高	99 億 74 百万円
連結経常利益	2 億 54 百万円
連結当期純利益	1 億 7 百万円

基本方針

- 1 当社の主力事業である動力事業および整備事業の収支改善を図りつつ、今後も安定的な経営基盤として確立するために再構築を行う。
- 2 今後の航空需要拡大を見据え、設備・人材への必要な投資を行い、コスト競争力の強化、技術力の向上を図り、安定的な成長ができる筋肉質の企業体質を作る。
- 3 顧客のニーズを的確に掴み、顧客満足度を高めることで、顧客とともに成長できる事業運営を行う。
- 4 経営環境の変化に対して、従来の発想に捉われることなく臨機応変に対応し、積極的にビジネスチャンスをつかえ飛躍を図る。

セグメント別売上高(連結)

整備
事業

1,962百万円
39.7%

動力
事業

2,476百万円
50.2%



付帯
事業

499百万円

10.1%



動力事業 営業利益(連結) **127**百万円 (前年同期比△157百万円)

整備事業 営業利益(連結) **234**百万円 (前年同期比+96百万円)

付帯事業 営業利益(連結) **111**百万円 (前年同期比△46百万円)

連結営業利益 **162**百万円 (前年同期比△81百万円)

注) 上記の事業別営業利益は、全社に係る販売費及び一般管理費控除前の金額

動力事業

POWER SUPPLY BUSINESS



GPU固定式:電力

羽田空港新国際線地区の供用開始による販売増があったものの、機材の小型化や路線の運休・減便などにより特に成田空港で影響を受け、前年同期比2億11百万円(7.9%)減収の24億76百万円となりました。

営業利益は、販売減に伴う原材料費の減があったものの減収の影響が大きく、前年同期比1億57百万円(55.1%)減の1億27百万円となりました。

今後につきましては、航空各社による小型化を含む機材構成の変化に対応できる新しい動力料金体系への改定を8月に実施しております。

下期以降、収益の回復に努めるとともに、前期において羽田空港新国際線地区などに設置した動力供給設備の使用率向上に向けた積極的な営業を継続してまいります。また、動力供給機材の導入コストおよびランニングコストの削減、LCCへの対応などについても、引き続き注力してまいります。



GPU固定式:冷暖房気

整備事業

MAINTENANCE BUSINESS



手荷物搬送設備

関西空港における手荷物搬送設備の補修工事の受注などにより、1億13百万円(6.2%)増収の19億62百万円となりました。

営業利益は、原材料費や人件費の削減に努めたことにより、前年同期比96百万円(69.2%)増の2億34百万円となりました。

今後につきましては、引き続き業務内容の見直しや弾力的な人材運用、コスト削減などにより、競争力の強化を図ってまいります。また、当社の持つメンテナンスのノウハウと24時間営業体制の強みを生かした提案型営業の展開により、周辺業務を取り込むなど、業容拡大を図ります。さらに、空港外特殊設備保守の分野においても営業を強化し、受託拡大を目指します。将来的な業容拡大の基礎として、より高付加価値な業務受託に向けた技術習得を継続し、人材の育成強化を推し進めてまいります。



旅客搭乗橋

付帯事業

SUPPLEMENTARY EQUIPMENT BUSINESS



キャリア(ターミナルにドッキング)



ターミナル

IH加熱カート(セバレートタイプ)

昨年同期はフードカート販売の大型案件があったことから、2億19百万円(30.5%)減収の4億99百万円となりました。

営業利益は、販売減の影響により前年同期比46百万円(29.4%)減の1億11百万円となりました。

今後につきましては、機内食カートのノウハウをベースに病院・福祉施設向けに新たに開発した、省スペース・省エネルギーのフードカートが一躍注目を集める状況となっていることを受け、積極的な販売活動を推進するとともに、さらに進化した次世代型のフードカートの開発にも着手しております。また、各空港での新型セキュリティ機器などの導入に伴う設置工事・保守の受託拡大、航空機地上支援機器の種類の絞り込みによる販売の効率化なども継続して行ってまいります。



ブレーキクーリングカート

ボーイング787「ドリームライナー」就航に向けた取り組み



電力供給設備 (GPU) による電力供給とエアコン車による冷暖房気供給 (B787)



B787に対応した電力供給設備 (GPU)

今秋最新鋭の中型旅客機「ボーイング787型機 (B787)」が世界に先駆けて就航し、2011年11月1日より定期便の運航が羽田一岡山、羽田一広島間の路線でスタートいたしました。B787は炭素繊維の複合材を機体に使用して燃費効率を向上させた次世代旅客機で、今後もさらなる路線への導入が計画されています。

B787の動力システムは従来の圧搾空気や油圧を使用する方式から電気式へと進化した新型旅客機で、駐機中は従来の旅客機よりも多くの電力を必要とします。当社はB787への動力供給に対応するため、羽田空港、成田空港をはじめとして固定式電力供給設備 (GPU) の容量アップを順次に行っています。

当社が開発・販売し、航空各社にお使いいただいているブレーキクーリングカートが、シアトルのボーイングフィールドにて性能チェックを受け、このたびB787ドリームライナーのボーイング社公式機材として認定を受けました。
(認定機材: GBC-290A、GBC-90B)

*ブレーキクーリングカート: 着陸時にヒートアップした航空機のカーボンブレーキディスクを空港駐機中に冷却する装置



使用中のブレーキクーリングカート (写真はエアバスA320iに装着中)

第2四半期貸借対照表

(単位: 百万円)

	当四半期 2011年9月30日現在	前期 2011年3月31日現在
【資産の部】		
流動資産	4,304	4,299
現金及び預金	1,861	1,762
受取手形	—	0
営業未収入金	1,384	1,484
有価証券	390	390
商品及び製品	32	51
仕掛品	155	81
原材料及び貯蔵品	240	209
前払費用	80	83
繰延税金資産	62	72
その他の流動資産	95	162
貸倒引当金	—	—
固定資産	6,780	7,288
有形固定資産	5,630	6,088
無形固定資産	56	69
投資その他の資産	1,093	1,130
資産合計	11,085	11,588
【負債の部】		
流動負債	1,830	2,002
営業未払金	980	957
一年以内返済長期借入金	391	423
一年以内返済リース債務	103	102
未払金	11	170
未払法人税等	69	64
未払費用	235	272
その他の流動負債	38	11
固定負債	3,807	4,076
長期借入金	2,585	2,818
退職給付引当金	918	896
その他の固定負債	0	5
リース債務	271	323
資産除去債務	32	31
負債合計	5,637	6,079
【純資産の部】		
株主資本	5,447	5,508
資本金	2,038	2,038
資本剰余金	114	114
利益剰余金	3,294	3,355
自己株式	△ 0	△ 0
評価・換算差額等	△ 0	0
純資産合計	5,447	5,509
負債純資産合計	11,085	11,588

第2四半期損益計算書

(単位: 百万円)

	当四半期累計 2011年4月1日~ 2011年9月30日	前四半期累計 2010年4月1日~ 2010年9月30日
売上高	4,815	5,113
売上原価	4,355	4,548
売上総利益	460	564
販売費及び一般管理費	311	337
営業利益	148	227
営業外収益	6	5
受取利息	1	2
受取配当金	1	1
その他の営業外収益	3	2
営業外費用	29	32
支払利息	25	27
リース支払利息	4	4
その他の営業外費用	—	0
経常利益	125	200
特別損失	2	23
貸倒引当金繰入額	2	0
固定資産除却損	0	1
その他特別損失	—	21
資産除去債務会計基準の 適用に伴う影響額	—	20
ゴルフ会員権償還損失	—	0
税引前四半期純利益	122	177
法人税、住民税及び事業税	60	80
法人税等調整額	△ 2	11
四半期純利益	64	84



第2四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	当四半期 2011年9月30日現在	前期 2011年3月31日現在		当四半期 2011年9月30日現在	前期 2011年3月31日現在
1・【資産の部】			2・【負債の部】		
流動資産	4,742	4,776	流動負債	1,631	1,864
現金及び預金	2,244	2,163	営業未払金	526	498
受取手形及び売掛金	1,409	1,519	未払法人税等	76	97
有価証券	390	390	その他	1,029	1,267
商品及び製品	32	51	固定負債	4,291	4,532
仕掛品	155	81	長期借入金	2,585	2,818
原材料及び貯蔵品	252	220	退職給付引当金	1,401	1,352
その他	257	348	資産除去債務	32	31
固定資産	6,882	7,377	その他	271	329
有形固定資産	5,631	6,088	負債合計	5,923	6,396
構築物(純額)	2,291	2,501	3・【純資産の部】		
機械及び装置(純額)	1,932	2,093	株主資本	5,702	5,757
その他(純額)	829	907	資本金	2,038	2,038
無形固定資産	57	69	資本剰余金	114	114
投資その他の資産	1,193	1,219	利益剰余金	3,549	3,604
その他	1,205	1,228	自己株式	△ 0	△ 0
貸倒引当金	△ 11	△ 8	その他の包括利益累計額	△ 0	0
資産合計	11,625	12,154	純資産合計	5,701	5,757
			負債純資産合計	11,625	12,154

1 資産

流動資産は、前連結会計年度(以下「前期」という)末に比べて34百万円(0.7%)減の47億42百万円となりました。これは、受取手形及び売掛金が1億10百万円減少し、現金及び預金が81百万円増加したこと等によります。

固定資産は、前期末比4億95百万円(6.7%)減の68億82百万円となりました。これは、主に有形固定資産が4億57百万円減少したこと等によります。

この結果、総資産は、前期末に比べて5億29百万円(4.4%)減少して116億25百万円となりました。

2 負債

流動負債は、前期末に比べて2億32百万円(12.5%)減の16億31百万円となりました。これは、未払金等その他の流動負債が2億38百万円減少したこと等によります。固定負債は、前期末比2億41百万円(5.3%)減の42億91百万円となりました。これは、長期借入金が2億33百万円減少したこと等によります。

この結果、負債合計は、前期末に比べて4億73百万円(7.4%)減少して59億23百万円となりました。

3 純資産

純資産合計は、前期末に比べて56百万円(1.0%)減少して57億1百万円となりました。これは、当四半期純利益および剰余金の配当を加減算した結果、利益剰余金が55百万円減少したこと等によります。

第2四半期連結損益計算書

(単位: 百万円)

	当四半期累計 2011年4月1日～ 2011年9月30日	前四半期累計 2010年4月1日～ 2010年9月30日
売上高	4,938	5,255
4・売上原価	4,404	4,607
売上総利益	534	647
4・販売費及び一般管理費	372	404
営業利益	162	243
営業外収益	5	5
営業外費用	30	32
経常利益	137	216
特別損失	2	23
税金等調整前四半期純利益	135	193
法人税、住民税及び事業税	67	104
法人税等調整額	△ 2	△ 3
少数株主損益調整前四半期純利益	70	92
5・四半期純利益	70	92

第2四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位: 百万円)

	当四半期累計 2011年4月1日～ 2011年9月30日	前四半期累計 2010年4月1日～ 2010年9月30日
営業活動によるキャッシュ・フロー	676	580
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 153	△ 226
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 441	583
現金及び現金同等物の増減額	81	937
現金及び現金同等物の期首残高	2,553	2,120
現金及び現金同等物の四半期末残高	2,635	3,057

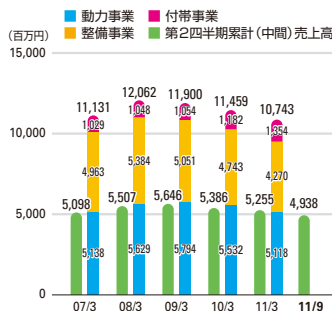
4 営業費用

動力事業、付帯事業での販売に伴う原材料費の減があり、さらに人材の効率的な運用等による人件費の削減や、消耗品費をはじめとした管理可能経費の削減に努めたものの、羽田空港新国際線地区動力供給設備の減価償却費の増があり、2億34百万円(4.7%)減の47億76百万円となりました。

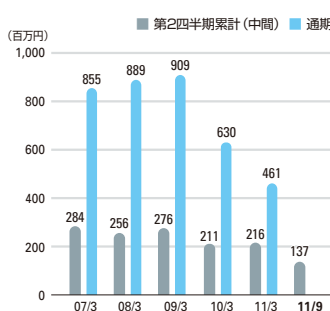
5 四半期純利益

前年同期は、資産除去債務に関する会計基準の適用を行った結果、この影響額を特別損失に計上しましたが、当第2四半期累計はこれがありませんでした。しかしながら、営業利益が減少したことにより、第2四半期累計純利益は前年同期に比べて22百万円(24.3%)減の70百万円となりました。

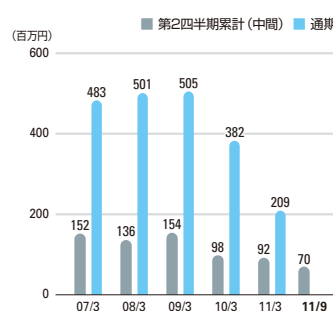
売上高



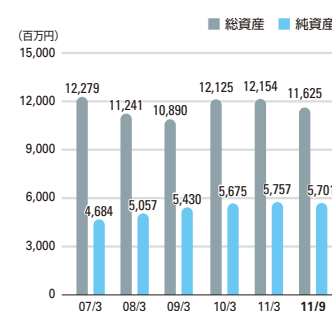
経常利益



純利益



総資産・純資産





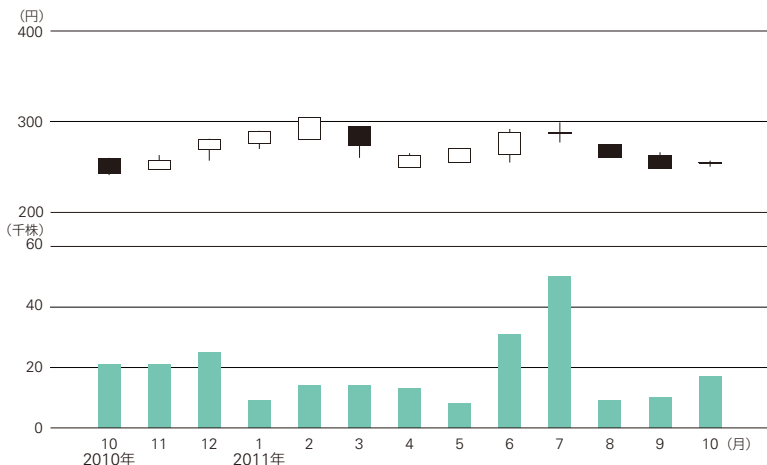
株式の状況

発行可能株式総数	52,000,000 株
発行済株式総数	13,950,000 株
株主数	542 名
単元株式数	1,000 株

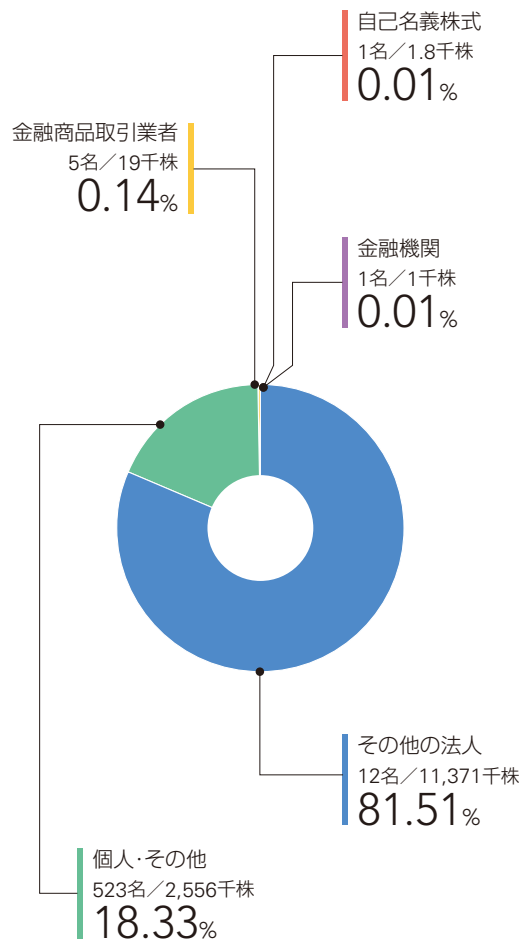
大株主

株主名	持株数	持株比率
日本航空株式会社	4,651,000 株	33.34 %
三菱商事株式会社	3,740,000 株	26.81 %
全日本空輸株式会社	2,793,000 株	20.02 %
エージーピー社員持株会	576,000 株	4.12 %
森田 成一	93,000 株	0.66 %
栗原工業株式会社	86,000 株	0.61 %
半澤 勝彦	72,000 株	0.51 %

株価及び株式売買高の推移 (月足)



株式の分布状況



会社概要

商号	株式会社エージーピー AGP CORPORATION
本社	〒144-0041 東京都大田区羽田空港一丁目7番1号 TEL. 03-3747-1631 FAX. 03-3747-0707 E-mail info@agpgroup.co.jp
最寄駅	東京モノレール羽田線 整備場駅 下車3分
設立	1965年12月16日 ／日本空港動力株式会社設立 2000年9月1日 ／株式会社エージーピーに商号変更
資本金	20億3,875万円
社員数	661名(連結)／170名(個別)
会計監査人	新日本有限責任監査法人

役員

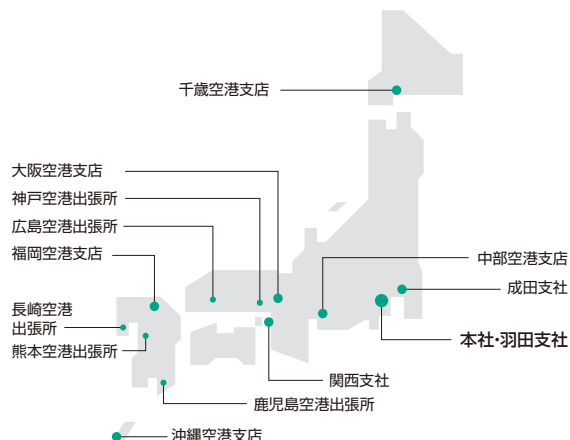
代表取締役社長	杉本学
常務取締役	山梨明
常務取締役	大島秀夫
常務取締役	福田朗
取締役	小林正樹
取締役	田中和之
取締役	金子晋也
取締役	松浦秀樹
常勤監査役	中村高広
監査役	穴戸昌憲
監査役	長谷川正人
監査役	矢口秀雄

エージーピーグループ(連結子会社)

株式会社エージーピー沖縄	株式会社エージーピー開発
株式会社エージーピー関西	株式会社エージーピー北海道
株式会社エージーピー九州	株式会社エージーピー中部

ネットワーク

本社	東京都大田区羽田空港一丁目7番1号 TEL.03-3747-1631 FAX.03-3747-0707
成田支社	千葉県成田市三里塚御料牧場1-1(日本航空成田第一ハンガー内) TEL.0476-32-8775 FAX.0476-32-8779
羽田支社	東京都大田区羽田空港三丁目1番2号 TEL.03-5757-9447 FAX.03-5757-9191
関西支社	大阪府泉南市泉州空港南1番地(関西国際空港格納庫内) TEL.0724-56-6101 FAX.0724-56-6107
千歳空港支店	北海道千歳市美々(新千歳空港内) TEL.0123-46-5858 FAX.0123-24-9213
中部空港支店	愛知県常滑市セントレア一丁目1番地(中部国際空港内) TEL.0569-38-0286 FAX.0569-38-8165
大阪空港支店	大阪府豊中市蛍池西町三丁目555番地(大阪国際空港内) TEL.06-6856-7326 FAX.06-6855-9490
神戸空港出張所	兵庫県神戸市中央区神戸空港4-1 TEL.080-5075-5932
福岡空港支店	福岡県福岡市博多区上臼井柳井348番地(福岡空港内) TEL.092-621-9124 FAX.092-629-1974
広島空港出張所	広島県三原市本郷町善入寺64番31(広島空港内) TEL.0848-60-8311
長崎空港出張所	長崎県大村市箕島町593番地(長崎空港内) TEL.0957-27-3066
熊本空港出張所	熊本県上益城郡益城町小谷1802-2(熊本空港内) TEL.096-213-5315
鹿児島空港出張所	鹿児島県霧島市溝辺町麓822番地(鹿児島空港内) TEL.0995-64-1620
沖縄空港支店	沖縄県那覇市鏡水150番地(那覇空港内) TEL.098-858-0291 FAX.098-859-4229



▶ ホームページのご紹介

当社ホームページでは、会社概要、IR情報、製品・サービスや採用情報など様々な情報を掲載しております。特に株主・投資家の皆さまに向けましては、決算短信、IRハンドブック等のほか、最新のIRニュースや株価情報なども掲載しております。ぜひご覧ください。
また皆さまのご意見・ご要望もお待ちしております。

<http://www.agpgroup.co.jp/>



▶ 株主メモ

決算期	3月31日
定時株主総会	6月中
同総会権利行使株主確定日	3月31日
利益配当金支払株主確定日	3月31日
基準日	毎年3月31日

そのほか臨時に必要なときは、あらかじめ公告いたします。

公告掲載新聞 日本経済新聞
株主名簿管理人 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号
三菱UFJ信託銀行株式会社
同事務取扱場所 同社 証券代行部
(同送付先) 〒137-8081
東京都江東区東砂七丁目10番11号
三菱UFJ信託銀行株式会社証券代行部
電話：0120-232-711 (通話料無料)

● お知らせ

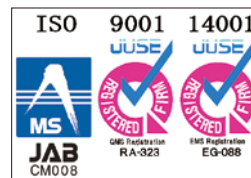
株式に関するお手続きについて

- (1) 株券電子化に伴い、株主さまの住所・氏名等の変更、買取請求、その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で承ることとなっております。なお、未受領の配当金及び株式事務に関する一般的なお問い合わせにつきましては、株主名簿管理人である三菱UFJ信託銀行にお問い合わせください。
- (2) 「特別口座」に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、特別口座の口座管理機関(兼 株主名簿管理人)である三菱UFJ信託銀行にお問い合わせください。

※「特別口座」：株券電子化実施日において「株式会社証券保管振替機構(ほふり)」をご利用でない株主さまの権利を確保するために、当社が当該株主さまの名義で開設した口座です。

 株式会社 エージーピー

〒144-0041 東京都大田区羽田空港一丁目7番1号
TEL.03-3747-1631 FAX.03-3747-0707
URL: <http://www.agpgroup.co.jp/> E-mail: info@agpgroup.co.jp



本冊子はリサイクルペーパーを使用しております。